Case 6

革新的サービス

店舗を問わず利用可能なリユース容器とユーザーの利便性を高めるアプリの開発

廃プラスチックの削減が社会的な課題となっている。この課題の解決に向けて事業化したのが、街中で共通のリユース容器をシェアする「Megloo（メグルー）」である。補助事業では、店舗のニーズを汲み取った容器開発とオペレーションシステムとなるアプリを開発した。



現在、全国７都市で利用されている

補助事業のきっかけ

・国内の廃プラスチック（850万トン）のうち、約50%弱を包装・容器等のゴミが占めている。家庭ゴミの約2/3は容器包装、1/3がカップや弁当容器が大きな割合を占めている。
・この問題を解決するため、街中で共通のリユース容器をシェアし、アプリを介して貸し借りができるサービスの実現を目指した。

事業計画の概要

・容器開発では、洗いやすく、汁物でも溢れないという条件を満たす必要があった。金型により量産を行うが、プラスチック素材とはいえチープな印象を与えない質感の確保、パッキンを使わず密閉性の確保などの課題解決を行なった。
・アプリ開発においては、貸し借りの手間を最小限にできる機能の実現を目指した。

事業化状況

・全国７都市でリユース容器が利用されている。容器の購入やレンタルといった顧客の要望に合わせて提供している。問合せはほとんどがWebからである。直接競合するサービスがほとんどなく、関心を持った団体等から直接引き合いを得ている。

事業性を地域で検証

日本は一人あたりのプラスチックごみ排出量が米国に次いで2位と言われています。特に家庭ごみの中でも容積比で15％に及ぶ使い捨てカップ等の容器ごみを削減できないか、と問題意識を持っていました。このような社会課題の解決を事業としたのがMegloo（メグルー）です。この事業は、リユースカップや容器を飲食店のテイクアウトに取り入れていただき、消費者は利用後、Megloに参加しているどの店舗でも返却できる、というものです。飲食店にとって、プラ容器の代替として紙素材の容器を使うケースもありますが、耐水性や耐油性に難がありますし、紙容器のコストを考えても、リユース容器にメリットがあります。当社は、ごみの発生抑制を目指す鎌倉に拠点があります。まずは市内で協力店を募り展開。実証実験を行い、容器の利用頻度、ごみの削減効果などを検証し、事業性を判断しました。この取組みはメディアでも取り上げられ注目を得ました。

企業概要

KAMAN

2020年に鎌倉を拠点に設立。社会課題を解決する事業立ち上げのほか、新規事業創出プログラム立ち上げ支援・起業家支援活動も行う。テイクアウト用の使い捨て容器削減のため、地域共通のリユース容器シェアリングサービスMegloo（メグルー）を立ち上げ、廃棄プラスチックを無くす国際アライアンスによる初の日本国内プロジェクトとして選出された。「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指す鎌倉市から実証実験を行い、Megloo導入地域は現在7地域まで拡大している。

- 株式会社カマン
- 代表取締役 善積真吾
- 2020年11月
- 〒248-0013 鎌倉市材木座 2-1-20-102
- ６人
- 300万円
- ー
- プラスチック製品製造業
- WEBサイト

取材の現場から

開発した容器の形状を変える機構やオペレーションの仕組みと合わせて「管理システム」として特許も出願予定とのこと。容器は販売やレンタルなどユーザーの希望に合わせて柔軟に提供できる。環境問題を押し付けることなく、消費者のライフスタイルにMeglooが浸透し、無理なく社会課題の解決に貢献できる点もユーザーが増えている要因と思われる。



開発したリユース容器　パッキンを使わずに密閉性も確保している



左/代表取締役の善積 真吾氏　右/ユーザーはアプリの利用で貸し借りの手間が最小限で済む

人脈を活かした開発体制

都市部や大規模イベント会場での導入を目指す上で、容器の仕入れコスト低減、飲食店ニーズを反映した形状変更が必要となり、量産化に向けて補助金を活用しました。課題はユーザー利用時のオペレーションシステムとなるアプリの開発。そして容器は質感を確保し、凹凸が少なく、漏れず、洗いやすさの実現でした。私は前職の大手電気機器メーカーで様々な新事業開発に携わってきました。今回の開発では、これまで培った人脈や小型金型の製造技術等を活かすことで、機能的で見栄えの良い容器を実現できました。現在は北海道から石垣島まで全国7都市に利用が広がっています。問合せはHPから直接いただくことが多く、「リユース容器」「シェア」といったワードでWEB検索すると当社がヒットするので、今のところ競合は少ないようです。消費者にとっては、テイクアウトを選択する際にリユースか使い捨てを選択します。環境問題に意識の高い人が自らリユースを選ぶので、必然的に回収率も高くなっています。